2月4日　「山上の変貌」　聖書研究

テキスト　マタイによる福音書17章1〜13節

イエス様は、山の上で、顔は太陽のように輝き、服は光りのように白くなりました。イエス様がモーセとエリヤと話し合っていることは、ペトロにも分かりました。そのとき、ペトロは、仮小屋を三つ建てましょうと語ります。ペトロらしい発言と言えましょう。その気持ちは分かります。このような栄光に輝くイエス様の姿を見続けていたかったのです。いつでも、イエス様がモーセとエリヤと話せる場所を用意しておきたいのです。また、ペトロは、イエス様の栄光の姿を留めおくために、自分でも何かできることがあると思っています。

そのようにペトロが語っているとき、光輝く雲が覆い、天から声がありました。そのとき、三人の弟子たちは、これを聞いてひれ伏し、非常に恐れました(6節)。彼らは、その光を見ること、また、天からの声を聞くことに耐えられず、恐れの余りに顔を地に伏せたのです。この出来事は、好奇心をそそるものであるより、聖なる光景への畏敬、畏怖、恐れを呼び起こすものです。ペトロが気軽に口を挟めるような状況とは、全く違うのです。人間の目が見続け、人間の耳が聞き続けるには、余りにも眩しすぎる光栄であり、御声です。ですから、この物語を語ろうとする者は、まず、畏敬の念をもってテキストを向き合うことから始めねばなりません。

7節によれば、彼らは、イエス様から、手で触れていただき、立ち上がることができました。弟子たちが顔を上げたとき、モーセとエリヤは見えず、イエス様も以前の姿であったかもしれせん。しかし、ここに真の礼拝があります。栄光の主の輝きを知り、栄光の主を見続けることができない自分を知るとき、人は、ひれ伏すしかないのです。同時に、そのとき、イエス様が手を差し伸べ、私たちの顔を上げ、イエス様を見る者としてくださいます。私たちは、イエス様の憐れみによって、見ることができないことを見、聞くことができない声を聞く恵みへと、招かれています。

今日のテキストは、文脈を正しく理解し、話しの流れを掴むことが、特に大切です。弟子たちは、イエス様が十字架に進まれる直前に、栄光の主の御姿を拝することを許されました。ここに現れたモーセとエリヤは、旧約を代表する二人であり、旧約聖書の律法と預言を象徴的に表わしています。ルカによる福音書の平行記事によれば、十字架が律法と預言を満たすものであることを、彼らは話し合ったのでしょう。モーセとエリヤによって代表される旧約聖書全体の教えが、十字架のなかで成就します。

イエス様ご自身の本当の姿は、今日の箇所が示していますように光り輝く栄光の姿です。そのお方が、光りと輝きを消し、十字架の暗さのなかに入ってきてくださいました。これは、私たちの罪のためです。十字架の暗さは、私たちの罪の暗さです。イエス様は、十字架の暗闇のなかにあっても、栄光の主であり、光り輝くお方であります。弟子たちは、「これは私の愛する子、私の心に適う者、これに聞け」という声を聞きました。十字架に進み行くなかで、弟子たちは、イエス様が神様の愛する御子であることを覚えることができるように、この出来事は起こったのです。

また、終末の完成前に現れるエリヤとは、洗礼者ヨハネのことです。律法学者は、新しいエリヤの到来を預言できますが、洗礼者ヨハネがその預言の成就者であることを知りません。そして、ヨハネは、無惨な殺され方をします。エリヤの後に現れた真の救い主イエス様も、彼らによって、殺されます。光が消されてしまいそうです。しかし、イエス様は、三日後に復活されます。そして、復活後に弟子たちは、栄光の主を語り始めます。闇は光に勝つことはありません。暗闇が、この世と私たちの心を被うかもしれません。しかし、それは、罪の暗さであっても、イエス様の暗さではありません。何が起きても、どのような暗闇のなかでも、栄光の主を仰ぎましょう。　（岩崎　謙）

2月4日　「山上の変貌」　説教展開例

テキスト　マタイによる福音書17章1〜13節
参照カテキズム　子どもカテキズム 問22、24

〔単元のねらい〕

先週の箇所と一つに結ばれている御言葉である。主イエスは、ペトロの信仰告白を受けて、御自身の救い主キリストとしての働きが十字架にあること、苦しみを受けて殺されることにあることを明らかにされた。マタイ16章21節〜28節をお読みいただきたい。ここで主イエスが明らかにされた救い主キリストの姿は、このときの弟子たちの受け入れられるものではなかった。ペトロに与えられた信仰告白は、まことに天の御父が現したものであった。こうして、とまどいと不安、恐れの中に置かれた弟子たちに、恵みの出来事が与えられる。それが今朝の御言葉である。主イエスは、まことの人であられるが、同時に真実に神の御子であられ、栄光の内に光り輝くお方である。それは、とりわけ、苦難を経て栄光を受けられるのである。その栄光をかいま見る機会を与えられて、弟子たちの信仰は守られ、強められた。やがて復活の主イエスと出会い、聖霊を注がれて、弟子たちは、この出来事の意味を悟ることになったであろう。主イエスのお姿が変わった驚きを子どもたちと共有し、「これに聞け」と約束されている、この神の約束に信頼することに立つことへと子どもたちを招きたい。

「白く光り輝く主イエスさま」

今朝も、聖書の御言葉を一緒に聴くことができて嬉しいです。先ほど聴いた御言葉、びっくりしましたね。何が起きたのでしたか。

主イエスは三人の弟子たちを連れて、山に登られました。ペトロ、ヤコブ、ヨハネの三人を連れて、高い山に登られた。おそらくはお祈りをするためです。ときどき、主イエスは、人々から離れて、静かなところに行って、お祈りをされます。三人のお弟子さんだけを一緒に連れて、お祈りをするために山に登られました。そのお祈りをしているときに、驚きました。お弟子さんたちの見ている前で、主イエスの姿が白く光り輝くように変わったのです。顔は太陽のように輝いて、服は光のように白くなりました。主イエスさまが、白く明るく光り輝いておられたということです。これはいったい何事でしょうか。見ていると、さらに驚いたことに、モーセとエリヤが現れて、主イエスさまと話をしておられます。これはいったいどういうことなのでしょうか。

このことがわかるためには、少し戻って、お話ししなければなりません。先週のことを思い出しましょう。先週は、主イエスとお弟子さんたちがフィリポ・カイサリアに行ったお話でした。ペトロさんが「あなたこそ生ける神の子、まことの救い主キリストです」と信仰を告白して、主イエスはとても喜ばれました。「あなたはペトロ。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てる」とおっしゃって、神の子救い主キリストを信じる信仰の上にこそ教会を建てると約束されました。

先週のお話はそこまでででしたが、そのペトロの信仰告白のあと、続いて、主イエスは弟子たちにいろいろな話をなさいました。主イエスがこれから何をなさるのか、救い主キリストとしてどのようなお働きをされるのか、ということについてです。主イエスが「神の子救い主キリスト」であるならば、救い主キリストは何をしなければならないのか、何のために遣わされているのか、主イエスはお弟子さんたちにお話しされました。

そのお話はお弟子さんたちにとって、驚くべきものでした。主イエスは、御自身が十字架につけられて殺されると、そうおっしゃったからです。苦しみを受けて殺されるとおっしゃったのです。

今、わたしたちは、あまり驚かないかもしれません。でもよく考えましょう。わたしたちは、教会に来て、最初から、十字架につけられたお方として主イエスさまを知っています。でも、このときのお弟子さんたちは、まだ主イエスの十字架を知りません。主イエスは、まだ十字架につけられておらず、弟子たちと生活を共にして、福音を宣べ伝えていました。また、お弟子さんたちにとって、救い主キリストとは、イスラエルの国を再建して、ダビデの王国を打ち立てる、地上の王様のことでありました。イスラエルの国は、今はローマ帝国に支配されている。そのローマの支配を打ち破って、ダビデの王国を回復してくださる。そのような英雄であったのです。主イエスは、やがて立ち上がって、そのような英雄として活躍される。弟子たちはみな、そのことを期待していました。ですから、ペトロは、十字架につけられるとおっしゃる主イエスをさえぎって、そんなことを言ってはいけませんと、主イエスをさとそうとしたほどなのです。けれども、逆に主イエスは、そんなペトロをおしかりになりました。「あなたはわたしの邪魔をするのか」とおっしゃって、厳しくペトロをおしかりになったのです。

そのように、御自身が十字架につけられて殺される。そうしてこそ救い主としての働きを成し遂げることができる。あなたたちも自分を低くして、自分の十字架を背負いなさいと、主イエスは弟子たちにお教えになりました。そのようにお教えになりながら、ガリラヤへと帰って来たのです。お弟子さんたちは、主イエスのお話はどういうことであるのか、とまどいながら帰って来ることになりました。主イエスさまのおっしゃることは本当であろうか。主イエスさまのお言葉を信じてよいのであろうかと、迷ったり、疑ったりする心が湧き起こっていたかもしれません。

そのような迷いや疑いを解決する近道は何か。主イエスはそのことをご存じでした。それはお祈りすることです。主イエスと一緒にお祈りすること。だから、主イエスは、お弟子さんを連れて山に登り、一緒にお祈りをしました。そして、天の御父は、そのお祈りに答えてくださいました。すばらしい出来事を与えて、お弟子さんたちに答えてくださいました。

お祈りしていると、主イエスさまの姿が光り輝いてきました。白い光に包まれて、これは、神の御子の栄光の光です。主イエスさまはまことの神さまであり、神の御子であられる。そのことは確かなことであると、不思議な出来事を通して証しされたのです。モーセさんとエリヤさんが現れて主イエスと話をします。旧約の預言者であるモーセとエリヤさんです。主イエスさまがこれからなさろうとしておられることは、旧約聖書において預言され、約束されていることなのです。旧約聖書は、主イエスの十字架を指し示しています。そして、光り輝く雲に覆われて、天からの声が聞こえます。「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者。これに聞け」。天の御父が、この主イエスこそまことの神の御子、神の御心に適うお方であると、そうはっきりとおっしゃいました。このお方に聞いて、信頼すればよいのです。このお方を疑う必要はない。そういうことです。

主イエスさまが十字架につけられ、苦しまれて殺される。これはたいへんつらいこと、悲しいこと、厳しいことです。しかし、その道を通ってこそ、主イエスは、栄光を受けられます。そこに神の御心があるのです。

お弟子さんたちは、このような不思議な出来事を心に刻んで、やがて主イエスがよみがえられたときに、この救い主キリストの御業を知り、理解することができるようにと整えられました。主イエスさまは、十字架を堪え忍んで、その苦しみを経て栄光をお受けになるお方です。主イエスの十字架のお姿を見つめてこそ、まことの神としてのみ姿、その栄光を見ることができます。聖書は、この主イエスを見つめなさいと、わたしたちに語りかけているのです。　　（望月　信）

〔今週の暗唱聖句〕　マタイによる福音書17章5節

これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者。これに聞け。

2月4日　「山上の変貌」　幼稚科

〈ねらい〉

主イエスは私たちに必要な助けを与えてくださる。だからどんな時でも主の言葉を聞き、ただ主に信頼して歩んでいこう。

〈展開例〉

ある日、イエス様はペトロとヤコブ、ヨハネの三人のお弟子さんたちだけを連れて、お祈りをするために高い山に登られました。お祈りをしていると驚いたことに、お弟子さんたちのいるところでイエス様のお姿が変わってきました。顔は太陽のように輝き、服は光のように白くなりました。そしてもっと驚いてしまうのがそこにモーセとエリヤが現れて、イエス様とお話をはじめました。

ペトロは「主よ。私たちがここにいるのはすばらしいことです。お望みでしたら私がここに仮小屋を三つ建てましょう。ひとつはあなたのために、ひとつはモーセのために、もうひとつはエリヤのために」と言いました。でもあんまり驚いてしまって、本当は自分でも何をいっているのかわかっていませんでした。

ペトロが話しているうちに今度は光り輝く雲が出てきて、イエスさまとモーセとエリヤを包み込んでしまいました。すると光り輝く雲の中から「これは私の愛する子、私の心に適う者。これに聞け」という声がしました。三人のお弟子さんたちはその声を聞くとなんだかとても怖くなって、顔をあげて見ていられなくなりました。気がつくとイエス様が三人の手をとって、「起きなさい、恐れることはありません」と言われました。顔を上げるともうイエス様はいつものお姿でほかには誰もいませんでした。

雲の中から「これは私の愛する子」と言われたのはどなたでしょうか。父なる神様ですね。父なる神様がご自分からイエス様は神の子です、とはっきりおっしゃっているのです。素晴らしいですね。イエス様は怖がって下を向いたお弟子さんたちに「恐れることはありません」といって手をとってくださいました。私たちがこまっているときも、イエス様は必ず手をとってくださいます。だからどんな時でも神様の声を聞き、神様にしっかりつながって歩いていきましょうね。

〈おいのり〉

神様、弱い私たちが倒れてしまってもいつも助けてくださることをありがとうございます。どうか私たちがいつでもどこでもどんな時でも神様の声を聞いて従っていけるように助けてください。

声が雲の中から聞こえた

2月4日　「山上の変貌」　小学科下級

〈ねらい〉

イエス様は信頼していた三人（ペトロ、ヤコブ、その兄弟ヨハネ）だけを連れて、祈りに没頭するために高い山に登られた。これから苦しみを受ける使命を確認するためであっただろう。すると、イエスの姿が目の前で見ることが困難なほどで光り輝いた。目をあけると旧約を代表する二人と共に話し、イエスの姿は権威ある者の姿として描写され、その聖書全体、歴史全体にもこの光景の意味の深さを読者に伝えようとしている。子供たちにはその驚くべき光景が前週のペトロの信仰告白と、この後起こる事態（十字架）との応答であるように、できるだけ的然に伝えるようにしたい。

〈展開例〉

イエス様はお祈りをするためにペトロさん、ヤコブさん、その兄弟のヨハネさん三人を連れて、高い山に登られました。誰にもじゃまをされずにじっくりとお祈りするためです。すると、イエス様の姿が顔は太陽のように輝き、服は光のように白くなってしまいました。みんなは太陽を見たことがありますか？　まぶしすぎて見ることができませんね。イエス様の顔が太陽のようになってしまって見ることができなくなってしまったのです。まぶしい中よく見てみると旧約聖書出てくるモーセさんとエリヤさんがなんとイエス様とお話をしていたのです。すると天から「これは私の愛する子、私の心に適う者。これに聞きなさい」と声が聞こえてきました。そこにいた弟子たちはひれ伏しとても驚きました。

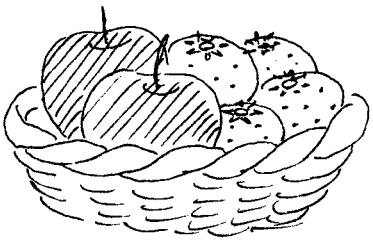
神様は見ることはできませんが、実はいつも光り輝いています。その神様を私たちは本当は見ることができないのに、イエス様ご自身が地上に降りてくださって見えるようにしてくださいました。感謝しましょう。

〈ワーク〉

1. イエス様のお姿が変わり、顔が太陽のように輝き、服は光のように白くなりました。イエスさまはいったいどのようなお方なのでしょうか。
   →まことの神であるお方。神の尊い独り子。だから、「これはわたしの愛する子」という声がしたのですね。
2. 「これに聞け」という声が雲の中からしました。これとはどなたのことですか。
   →主イエス・キリスト
3. イエス様に聞くとは、わたしたちにとって、どういうことですか。
   →自由に話し合おう。聖書の御言葉に信頼して、学ぶこと。礼拝に出席して、説教を聞くこと。イエス様に依り頼んで、ただこのお方に信頼すること。

〈おいのり〉

神様、まことに信頼して、聞き従うべきお方、主イエス様を与えてくださり、ありがとうございます。十字架につけられ、私たちのために死んでくださるお方にこそ依り頼むことができますように。主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。



2月4日　「山上の変貌」　小学科上級

〈ねらい〉

イエス様が栄光に満ちた方であることを学ぶ。

〈展開例〉

1. 輝くお姿

イエス様はペトロ、ヤコブ、ヨハネをつれて高い山に登られました。お祈りをしていると突然、イエス様のお姿が変わりました。顔は太陽のように輝き、服は光のように白くなりました。

スポットライトが当てられて、白く輝いたように見えたのではありません。イエス様の内側から神様の光が輝き出したのです。

それはイエス様が人間の姿をとる前、神様のところにいらっしゃったときの、聖く輝く栄光のお姿でした。

2. モーセとエリヤが

いつの間にかモーセとエリヤが立っていて、イエス様と語り合っていました。

モーセとエリヤは、もう何百年も前に天国に行った預言者です。彼らは、イエス様がこれから十字架にかかって死なれることについて話をしていました。

3. 神様の声

すると雲の中から神様の声が聞こえてきました。「これはわたしの愛する子、これに聞け」弟子たちは恐ろしくなり、ひれ伏しました。

4. この出来事の意味

①イエス様は、栄光に輝く神様であること

このお姿こそ神の御子の本当のお姿です。

イエス様は、私たちが想像できないくらいすばらしく、栄光に満ちたお方です。

②イエス様の十字架が神様の御心であること

モーセとエリヤは旧約聖書を代表する預言者です。この出来事から、イエス様が十字架にかかることは、旧約聖書の時代からの神様の救いの御計画だということがわかります。

ペトロはこの出来事を目撃したとき、理解できませんでしたが、イエス様が復活されたあと、このときのことを思い出して、イエス様の救いは確かであると力強く伝えています。(ペトロの手紙二1章16〜19節)

③私たちも変えられる

イエス様がこの世に再び来られるとき、信じる私たちも栄光の体に造り変えられます(フィリピ3章21節)。また、主と同じ姿に日々造りかえてくださるとの、すばらしい約束が与えられています（コリント二3章18節)。

5. ワークシート

イエス様の栄光のお姿を記している箇所です。下線にあてはまる言葉を入れましょう。下の文字の中に答えが隠されています。探してみましょう。(縦、横、斜めで言葉をさがす。同じ字を二回使ってもよい)

①「そのとき、人の子が大いなる力と＿＿＿＿をおびて＿＿＿＿に乗って来るのを、人々は見る。」(ルカ21章27節)〈再臨のイエス様〉

②「しょくだいの中央には、人の子のような方がおり、足まで届く＿＿＿＿を着て、胸には＿＿＿＿をしめておられた。その頭、そのかみの毛は、白い＿＿＿＿に似て、＿＿＿＿のように白く、目はまるでもえさかる＿＿＿＿、足はろでせいれんされた、しんちゅうのように＿＿＿＿、声は＿＿＿＿のとどろきのようであった。」(ヨハネの黙示録1章13〜15節)〈天でのイエス様〉

あ	ゆ	ら	ぽ	ほ	く
る	き	じ	の	せ	も
か	ん	お	こ	ろ	も
が	の	え	い	こ	う
や	お	お	み	ず	し
き	び	よ	う	も	う

【答え】えいこう　くも　ころも　きんのおび　ようもう　ゆき　ほのお　かがやき　おおみず

〈今日のカテキズム〉

※参照カテキズムとして、子どもカテキズム問22、24が挙げられています。問24を記します。

問24　主イエス・キリストは、私たちの救いのために、どのようなお働きをしてくださったのですか。

答　主イエス・キリストは、私たち罪人の身代わりとして十字架に死に、三日目に永遠のいのちによみがえられました。ですから、私たちは、罪赦されて　神と共に永遠に生きる祝福に生かされています。

※あがない主としてイエスさまは、預言者・祭司・王の職務を「へり下り」と「高挙」とのどちらの状態においても果たされる、とカテキズムは教えます。今日のお話にでてくるようなイエスさまの高い状態のお姿を見る時、同時に、この後十字架に向かわれるということ、更に低い状態のお姿をも取られたということを覚える必要があります。私たち罪人は高い者への賛美は惜しまないのに、低い状態にある者を忘れ、ないがしろにしてしまう傾向があるからです。実際、今日のお話で光り輝くイエスさまの姿を見たペトロは、十字架の時、イエスさまを否定してしまいました。

ウェストミンスター小教理問答

問27　キリストのへり下りは、どの点にありましたか。

答　キリストのへり下りは、次の点にありました。キリストが生まれられたこと、それも低い状態であられたこと、律法のもとに置かれたこと、この世の悲惨と神の怒りと十字架ののろいの死とを忍ばれたこと、葬られたこと、しばらく死の力のもとに留まられたことです。

問28　キリストの高挙は、どの点にありますか。

答　キリストの高挙は、次の点にあります。キリストが三日目に死人の中からよみがえられたこと、天に昇られたこと、父なる神の右に座しておられること、終わりの日に世をさばくためにこられることです。

ハイデルベルク信仰問答

問43　十字架上でのキリストの犠牲と死から、わたしたちはさらにどのような益を受けますか。

答　この方の御力によって、わたしたちの古い自分が　この方と共に十字架につけられ、死んで、葬られる、ということです。それによって、肉の邪悪な欲望が　もはやわたしたちを支配することなく、かえってわたしたちは　自分自身を感謝のいけにえとして、この方へ献げるようになるのです。

問45　キリストの「よみがえり」は、わたしたちにどのような益をもたらしますか。

答　第一に、この方がそのよみがえりによって死に打ち勝たれ、そうして、御自身の死によって　わたしたちのために獲得された義に　わたしたちをあずからせてくださる、ということ。第二に、その御力によってわたしたちも今や新しい命に生き返らされている、ということ。第三に、わたしたちにとって、キリストのよみがえりは　わたしたちの祝福に満ちたよみがえりの確かな保証である、ということです。

〈今週の聖書日課〉

日曜日	マタイ7：1～13
月曜日	ローマ4：25
火曜日	コリントー15：16～20
水曜日	ペトロー1：3～5
木曜日	エフェソ2：4～6
金曜日	コロサイ3：1～4
土曜日	フィリピ3：20～21